

植栽ジャーナル

なら



し き いろどり

四季彩の庭

第3号

地域の魅力と彩りを活かしたまちづくり

葛城市

みんなでつくる「私たちの庭」

なら橘プロジェクト推進協議会

私たちは庭づくり応援団

大和ハウス工業株式会社

地域の魅力と彩りを 活かしたまちづくり

二上山を望む

奈良県の魅力を向上させる「奈良県植栽計画」は、各市町村においても、行政とそれぞれの地域の方々の協力も得て、着々と進んでいます。今回はその中から葛城市の取り組みについて紹介します。

自然と歴史のまちを
地域の人々とともに彩りたい

葛城市



葛城市 産業観光部
部長 池原 博文 さん

平成16年10月に旧新庄町と旧當麻町が合併して誕生した葛城市。奈良県北西部に位置し、二上山などの山並みと山麓の田園風景が美しい緑豊かなまちです。のどかさが残る一方で、歴史と文化の香り高いまちとしての側面もあります。歴史を活かした地区ごとの特徴ある景観づくりに取り組む葛城市について、葛城市産業観光部の池原博文さんにお話を伺いました。

彩りの景観づくりを推進

葛城市の面積は33.72km²、そのうち山林が約13km²を占め、金剛生駒紀泉国定公園をはさんで大阪府と隣接しています。

大和平野が一望できる二上山には、山登りやハイキングを楽しむ観光客が多く訪れ、平成26年度には、イロハモミジを植えるなどして彩りの景観づくりを進めています。また、ダイヤモ

ンドトレール（金剛葛城山系の稜線を縦走する長距離自然歩道・全長45km）があり、六甲縦走や比良縦走と並ぶ関西を代表する縦走路として人気があります。

平成27年度には、葛城山麓公園近くの寺口地区にシバザクラを植栽しました。満開となるまでに数年はかかりますが、隣接する桑畑の緑にピンクのシバザクラが映える美しい風景となるよう育てていきたいと思っています。将来は、名所の一つとなり、多くの方に訪れ楽しんでいただければと期待しています。

地域による地域のための景観づくり

葛城市では季節によってひまわりや菜種などを地域の方たちが率先して育ててくれています。市内の44地区の中には高齢化が進んでいる地区もありますが、これまでの経験と知識を活かして、地域に合った景観づくりに関わっていただきたいという思いがあります。

11月には今年で三回目の「葛城山麓ウォーク」が葛城山麓地域協議会主催で開催されます。葛城山麓の各地区（南藤井、寺口、山田、平岡、山口、梅室、笛吹）を巡り、農村景観と地域の味覚を楽しんでいただくイベントです。地区によって乳製品、米、そば、桑、里芋などの特産物があり、それに伴い形成されている景観も異なります。地区ごとの魅力に触れながら、来訪者に喜んでいただけるようなこうしたイベントをこれからも浸透させていきたいと思っています。

名所を活かした景観の継承

葛城市には名所・旧跡が多く、国宝を8つも擁する當麻寺をはじめ、火と音楽の神様を祀る



葛木坐火雷神社(通称笛吹神社)、七夕の起源と伝えられている柵機神社(柵機)、相撲発祥の地として有数の資料を揃えた葛城市相撲館「けはや座」など、有形・無形の文化財や歴史遺産が点在しています。當麻寺ではボタン、石光寺ではシヤクヤクなど美しい花々を楽しむこともできます。また、葛城屈指の古社である笛吹神社では、大和三山を見渡せるよう支障木の伐採整備に取り組んでいます。

日本最古の官道「竹内街道」は、平成25年に敷設1400年を迎え、今なお大和棟の民家が立ち並ぶ街道景観は、奈良県景観資産に登録されています。街道沿いの葛城市當麻スポーツセンター前には、一里塚を目印に行き交ったいにしへの旅人に思いを馳せ、緑を感じてもらえる場所として「緑の一里塚」を設置しています。このような

歴史ある景観を継承し、地域活性化に活用していきたいと考えています。

国内外に葛城ブランドをアピール

今秋、奈良の西の玄関口として「道の駅かつらぎ」が太田地区にオープンします。敷地面積8万㎡で広大な公園のある道の駅です。里芋や桑、薬草、藍染めなどの地元産品や奈良県特産品の販売など、地域活性化の拠点になります。

関西国際空港との良好なアクセスを利用することで、多くの外国人観光客を誘致できる可能性もあります。国内外の多くの方々に、この自然と歴史のまちを訪れ、触れて、楽しんでいただきたいと考えています。



- ①竹内街道の「緑の一里塚」。足をとめて古を思い浮かべるきっかけに。
- ②山田地区で地域の人が育てるひまわり
- ③寺口地区ののり面に植栽されたシバザクラ。ピンクのじゅうたんになるのが待ちどおしい。
- ④県社会教育センター近くの、中戸新池付近から金剛・葛城山を望む秋の景観(奈良県景観資産)

みんなで作る「私たちの庭」



「なら橘プロジェクト推進協議会」。奈良ゆかりの大和橘を育て、地域活性化をめざした活動を展開しています。今回は、会長の城健治さんと担当の久保田有さんにお話を伺いました。

大和三山も見渡せる山の辺の道沿いで(天理市渋谷町)

日本固有の「大和橘」を植え育てる

なら橘プロジェクト 推進協議会



橘の「力」を活かし地域を元気に

5年ほど前に大和郡山市の商工会メンバーが地域を元気にするために何かしたいと思い、10名で立ち上げた会が前身です。最初は大和郡山市ゆかりの金魚に関する商品開発に取り組みました。その中で、メンバーの一人であった本家菊屋の菊岡洋之氏が「奈良には橘という日本固有の木がある」と言ったことがきっかけで、まったく未知であった橘について取り組むことになりました。調べるうちに、葉つき橘の実は、もともと神様のお供え物であり、文化勲章のデザインにも用いられている大変歴史の深いものであることがわかりました。橘の持っている「力」を活かし、地域活性化ひいては日本を元気にすることを目的に1年間かけてコンセプトづくりに知恵を絞り、本腰を入れて取り組み始めたのが「なら橘プロジェクト推進協議会」の始まりです。

橘の景観づくりへ

大和橘ともよばれてきた橘は、香りの高い柑橘類です。約2千年前に垂仁天皇の命を受けた田道間守が常世の国から持ち帰った不老不死の妙薬とされ、果実はお菓子のルーツともされています。「右近の橘、左近の桜」で知られ、500円硬貨に橘がデザインされているなど身近にあっても、いつの間にか人々の記憶からは遠ざかっています。今も西伊豆の戸田や志摩の答志島などに自生しており、砂かけ祭で有名な廣瀬神社(河合町)は、橘が芽吹いたところに社が建てられたと伝わっています。



山の辺地区・尼ヶ辻地区担当
久保田 有さん



会長
城 健治さん

木を育て活かす

まず、100本、200本と植えることから始め、橘に縁の深い尼ヶ辻(奈良市)の他、平城京と橘寺(明日香村)を結ぶ「橘街道(中ツ道)」沿いにある法華寺や大安寺などの境内にも苗木を植樹しました。将来、街道が橘の並木で連なるすばらしい光景がひろがるのではないのでしょうか。

苗木を植えてから実の収穫まで3年ほどはかかります。幸いなことに平成25年度から三年間、なら農商工連携ファンド事業(公益財団法人奈良県地域産業振興センター)に採用されて補助金をいただき、活動を継続することができました。また、当協議会や大和郡山市、豊岡市、全



古都買入地(天理市渋谷町)での植樹風景



「橘街道」の名で親しまれた中ツ道沿いに植えられた大和橘(大和郡山市)

国菓子工業組合連合会などが連携して取り組む「橘街道プロジェクト」が、内閣官房地域活性化モデルケースに選定されました。また、奈良県の地域資源に「橘街道」が登録されました。

山の辺地区や尼ヶ辻地区などに苗木を植え、橘の育成研究や栽培者の養成、果実の収穫と果実を活用した和菓子などの加工研究、商品開発、講座やイベントの実施など多岐にわたる活動は着実に実を結びつつあります。現在、賛同してくれる橘のオーナーも募集しており、ファンも増えてきています。

不老長寿の橘を日本から世界へ

「万葉集」には橘に関する歌が69首も読まれており、花や葉の香り、霊力、薬効パワーが日常

的に親しまれてきたことがわかります。奈良県産業振興総合センターの成分分析によると、抗酸化作用、抗がん作用、認知症の予防などに効果があると言われるノビレチンやタンゲレチンなどの機能性成分が多く含まれることがわかりました。また、アンチエイジングや美肌効果にも効能があるという研究報告もあります。

山の辺の道周辺は、もともとミカンの産地で橘の栽培にも適した場所です。昨年、70キログラムあった収穫量も、今後増えていく見込みですので産業化が課題です。食品やお菓子、アロマなど各分野の業界でも注目を浴びるようになっていきますので、企業にも関わっていただき商品化して全国発信、世界発信してほしいと考えています。

素晴らしい香りを楽しみながら、無限の可能性を持つ橘を皆さんも一緒に育ててみませんか。



神戸女学院大学生が橘を使った研究を見学

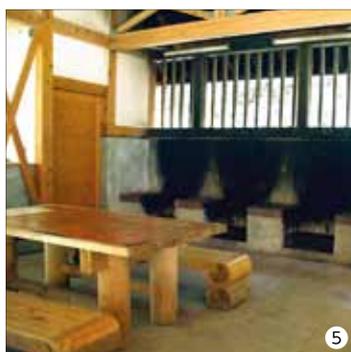
魅力ある庭づくりが進んでいます

■ 矢田丘陵エリア



矢田山遊びの森

なだらかな丘陵(約300ha)に広がる矢田山遊びの森。開放感のある芝生広場では美しい緑を眺めながらのびのびと過ごすことができます。桜を植樹し、新しい四阿^{あすまや}もできました。矢田山山麓の周辺は世界遺産の法隆寺をはじめ矢田寺、松尾寺など見所もいっぱいです。ぜひ、お弁当を持ってお出かけください。



- ①② 県産材を使った四阿
- ③ 四季折々の花が楽しめる
- ④ 芝生広場から峠池を眺める秋の風景
- ⑤ 料理体験館では、かまどで料理ができる。
(要事前予約)

NPO法人 森づくり奈良クラブ

矢田山遊びの森を拠点に森林ボランティアを始めて20周年を迎えます。平成29年3月25日(土)には頂上展望台周辺に桜やもみじの記念植樹を行いますのでぜひお越しください。



「山と川の月間」
協賛イベント 自然観察会

私たちは庭づくり応援団

川上村「未来への風景づくり」に協働参画

(大和ハウス工業株式会社)



大和ハウス工業株式会社
奈良支店長

井上 富重 さん

創業者の故郷に 樹を植え育てる

平成26年から川上村の白屋地区で植樹や下草刈りを通して景観づくりの活動を行っています。

川上村の栗山忠昭村長より、白屋地区の「未来への風景づくり」への協働参画を依頼されたのがきっかけです。「未来への風景づくり」への熱い想いに心打たれ、弊社の創業者・石橋信夫の生誕地がまさしく川上村であることから快諾しました。幸いなことに、奈良支店

はもとより、奈良県下のグループ会社の従業員とその家族、グループ会社のOB・OGそして多くの取引先企業が協力してくださり、活動を継続して行っています。

故郷への想いを共有

平成26年11月22日の「植樹祭」で、四季折々の木々を101本植樹しました。植栽は、5年10年が経ばなければ花開きません。下草刈りなどの活動には毎回多くの参加者が汗を流し、また当地の素晴らしい自然環境を楽しんでいます。しだれ桜、ユキノシタ、コブシなどは10年もすれば楽しめるようになります、一つの風景になると信じています。

平成27年11月8日には白屋地区での第1回「ふるさと祭り」に協賛させていただきました。集団移転

を余儀なくされた地区住民のご家族が熱心に朝から夕方の閉会まで参加され、故郷への想いに感動するとともにこの取り組みに参画してよかったと心から思いました。

共に創る、共に生きる

奈良県川上村は創業者の出身地であり、大和ハウス工業源流の地です。川上村出身の社員も多く、川上村への想いはひとしおです。この地で樹を植え、自然や人とふれあうことは、創業者精神を継承する社員教育でもあります。

平成27年に創業60周年を迎えましたが、創業100周年に向けて共創共生の精神でこの白屋地区に立派な風景を創り上げたいと思います。



植樹祭での活動風景

「未来への風景づくり」とは…

この地にかつてあった白屋集落は、大滝ダム試験湛水の影響により発生した地すべりで移転を余儀なくされました。現在、白屋地区は地滑り対策も終わり、神社跡の「鎮守の森」や、石積みの独特な風景が残っています。川上村では、「未来への風景づくり」プロジェクトとして、この地を未来へと継承すべく、緑による景観創出を企業・団体とともに推進しています。



植栽地(川上村白屋集落跡)

平城宮跡エリア

平城宮跡
(奈良市佐紀町)

見頃 11月~2月

大極殿や朱雀門周辺など、遺構の位置を示す垣根として、各所に植えられているサザンカ。ツバキ科の常緑広葉樹で、花の少ない冬に次々と開花して平城宮跡を彩り、訪れる人の目を楽しませてくれます。



写真提供：奈良文化財研究所

彩りの庭だより 秋・冬の彩り

奈良県内の彩りの名所を紹介します。

サザンカ



紅葉



桜井南エリア

談山神社
(桜井市多武峰)

見頃 11月中旬~12月初旬

紅葉の名所として知られる多武峰の談山神社。赤や朱に燃え立つ秋の景色は圧巻です。談山神社は大化改新の中心人物・藤原鎌足を祀る神社で、11月3日には古式ゆかしい「けまり祭」が行われます。



写真提供：奈良県ビジターズビューロー

アクセスマップ



植栽ジャーナル「なら四季彩の庭」 2016年10月発行

発行：奈良県暮らし創造部 景観・環境局 景観・自然環境課

〒630-8501 奈良市登大路町30番地

TEL 0742-27-8752 FAX 0742-22-8276

HP「奈良県植栽計画について」<http://www.pref.nara.jp/35018.htm>

奈良県植栽計画

検索